



5 福田の泉



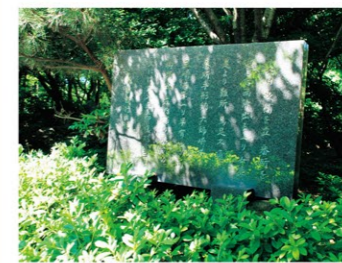
芭蕉と曾良をはじめ多くの旅人は、大須郷の峠から磯におり、浜伝いに象潟を目指した。磯におりてすぐ北に向かうと、断崖の下に湧泉がある。そこを「福田の泉」といい、多くの旅人がそこでのどをうるおしたといわれている。

4 正岡子規が宿泊した宿跡



正岡子規は明治26年(1893)8月10日、吹浦から象潟に向かう途中「夕陽に馬洗ひけり秋の海」と詠み、日が暮れたため大須郷の宿(現菅原家)に宿泊した。その宿で岩ガキを食べており、晩年の随筆集『仰臥漫録』にその思い出を書き、「ウマイ ウマイ 非常ニウマイ」と味を絶賛している。

2 曾良随行日記碑



元禄2年(1689)6月16日、芭蕉と曾良は象潟を目指し、難所である三崎山を通った。曾良随行日記碑は、三崎山周辺の記録を刻んだもので、「是より難所 馬足不通」などと書かれている。

1 三崎山旧街道



三崎山は日本海に張り出し、山形県との県境になっている。この岩山を通る旧道は、平安時代に慈覚大師円仁が開いたとされ、松尾芭蕉の『おくのほそ道』にもその厳しさが伝えられるなど、北国街道の難所として知られていた。旧道には、昔からの往来ですり減った石や一里塚が残り、秋田県の史跡に指定されている。

有耶無耶の関跡

有耶無耶の語源は、三崎山に手長足長という鬼がいて旅人を捕まえては食べていた。そのため、三本足の鳥が、鬼がいる時は「ウヤ」と鳴き、鬼がいない時は「ムヤ」と鳴いて旅人に危険を知らせたことから、有耶無耶の関と呼ぶようになったと伝えられている。

3 菅江真澄が宿泊した宿跡

菅江真澄は、天明4年(1784)9月25日に三崎山を通って小砂川に入った。小砂川の磯家(半右衛門家・現渡部家)へ2泊し、27日からは塩越(象潟)の岡本屋に3泊している。その間に見たこと、聞いたことは『秋田のかりね』に詳細に書かれている。



6 有耶無耶の関

有耶無耶の関の場所については、宮城県川崎町と山形市の境にある笹谷峠、秋田、山形の県境の三崎山、本市の関集落などの説がある。菅江真澄は『秋田のかりね』に「関村こそうやむやの関であろう」と書いている。関集落には今も「関字有耶無耶ノ関」という地名があり、近くには「鳥屋森」という地名もある。

7 蛸満寺



蛸満寺は仁寿3年(853)に慈覚大師が開山したと伝えられている。蛸満寺は昔、九十九島の一つであり、象潟の景色の要であった。境内は古刹にふさわしく、古木に囲まれ、七不思議などの伝説とともに旧跡が静寂の中にたたずんでいる。

8 象潟



象潟は昔、大小百数十の島を浮かべた文字通りの潟(入り江)であり、松島と並ぶ景勝の地であった。古くから能因や西行が歌に詠んだ歌枕の地として知られ、松尾芭蕉が『おくのほそ道』の旅の目的地の一つとして訪れたことから、その足跡を訪ねて多くの文人墨客が訪れている。象潟は現在、文化元年(1804)の地震で陸となったが、島々は水田の中に点在し、往時を偲ばせている。

きさかたエリア



三崎公園エリア



三崎公園一帯と周辺の海域は、平成27年に「おくのほそ道の風景地 三崎(大師崎)」の名称で国の名勝に指定されています。

いにしへの象潟は、波静かな潟に島々が浮かぶ、それはそれは見事な景勝地で、松島と並び称されていました。

象潟を訪れた文人の作品と足跡

きさかた文学マップ

にかほ市象潟郷土資料館

〒018-0104 秋田県にかほ市象潟町字狐森31-1 tel.0184-43-2005

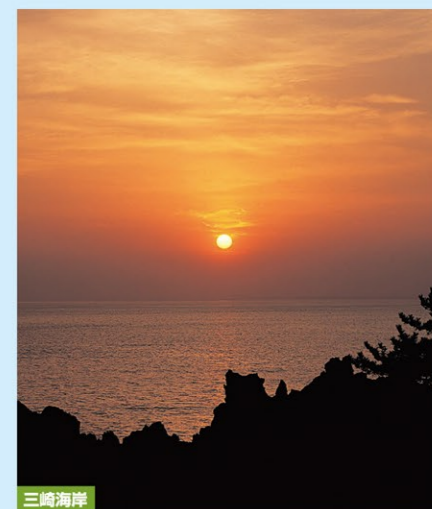
にかほ市観光協会

〒018-0121 秋田県にかほ市象潟町字大塩越36-1
観光拠点センター「にかほっと」内 tel.0184-43-6608

www.city.nikaho.akita.jp



芭蕉像(渡辺直堂筆)



三崎海洋

きさかた エリア

象潟や雨に西施がねぶの花

今から320年以上も前、「おくのほそ道」の目的地の一つとして象潟を訪れた芭蕉は、雨にうたれるねむの花に、中国の悲劇の美女西施を思い浮かべ、句を詠んでいます。



芭蕉像

世の中はかくても経けりきさかたの

あまの苦屋をわが宿にして 能因法師

『後拾遺和歌集』

きさかたの桜は浪にうづもれて

花の上こぐあまのつり舟 伝/西行法師

命あらばまたも来て見ん象潟の

心とどめし松のみどりに 伝/北条時頼

象潟や雨に西施がねぶの花

松尾芭蕉

『おくのほそ道』

汐越や鶴はぎぬれて海涼し

松尾芭蕉

『おくのほそ道』

ゆふ晴や桜に涼む波の華

松尾芭蕉

『象潟自詠懐紙』

象潟や料理何くふ神祭

河合曾良

『おくのほそ道』

波こえぬ契ありてやみさごの巢

河合曾良

『おくのほそ道』

象潟や雨二ふられてねぶり空

平賀源内

『おくのほそ道』

象潟や嶋がくれ行刈穂船

小林一茶

『旅客集』

なみ遠くうかれてこ、にきさかたや

菅江真澄

『秋田のかりね』

百合の山路越え来て合歓の花の里

河東碧梧桐

『三十里』

怨むがことき幽艶にして清趣に富める一場の風

田山花袋

『羽後の海岸』

それにしても、タテ・ヨコ一里の入江にたくさんの

島が浮んでいたというのは奇勝だったにちがいない。

それがいま大地が盛りあがって、田園のなかに

散在している。これも妙趣というほかない。

司馬遼太郎

『街道をゆく』

潟めぐりの舟の舟つなぎ石がある。



能因島



みさご島



花見島



道の駅 象潟「ねむの丘」



象潟のねむの花と鳥海山



象潟橋(欄干橋)



熊野神社

芭蕉が訪れた日は熊野神社の祭典であった。

高さ4.3m、幅5mの巨大な安山岩で、象潟が隆起する前は海中にあった。この石から地震で2.4m隆起したことがわかる。

芭蕉の「汐越や…」の句の初案の句は「腰長や…」で、このあたりを腰丈(長)という。

・水田や市街に点在する103の島々は、昭和9年に「象潟」の名称で国の天然記念物に指定されています。
 ・能因島をはじめとする10の島々と熊野神社境内、象潟川の一部は、平成26年、27年に「おくのほそ道の風景地 象潟及び汐越」の名称で国の名勝に指定されています。

曾良の句にあるみさごの名がついたみさご島

蛸満寺には芭蕉の「象潟自詠懐紙」、小林一茶や平賀源内、司馬遼太郎の筆跡がある「旅客集」、碧梧桐自筆の句の横額等がある。

能因法師が3年幽居したと伝えられる能因島

蛸満寺にある芭蕉の「象潟自詠懐紙」が刻まれた芭蕉文学碑

芭蕉と曾良が宿泊(初日)した「向屋」跡

芭蕉と曾良が宿泊(2日目)した「能登屋」跡

芭蕉はこの橋から鳥海山と島々を眺めた。

芭蕉を歓迎した今野又左衛門の家

芭蕉を案内した今野加(嘉)兵衛の家



にかほ市象潟郷土資料館

芭蕉真筆の「腰長や鶴脛ぬれて海涼し」(「汐越や…」の初案の句)の短冊、象潟の古景を描いた図屏風等を所蔵

凡 例	
	まち歩きコース
	芭蕉が歩いた道

